東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 12 月 17 日

ヒジュラ

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、そのご命令と禁止事項を人々に伝えるため、預言者たちを遣わされました。その任務がただ、人々を正しい道に到達させることであったこの神聖な使者たちのほとんど全ては、多くの拷問や圧力にさらされました。その一部は殺害され、一部は国外に追放され、一部は社会から追放され、迫害を受けました。しかしこの神聖な使者たちは、その遣わされた社会のための慈悲、、いつくしみ、そして愛情の源だったのでした。

アッラーの最後の使者、諸世界に慈悲として遣わされた預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）も、人々に、複数の神を信じることや権利の侵害を放棄し、ただ崇高なる創造主への崇拝行為を行うこと、公正さ、慈悲、人間的道徳へと招いておられました。マッカの多神教徒たちはこの神聖な使徒に、想像もつかないような迫害、暴圧を行なっていました。この重い圧迫のもと、教えを広めること、教えへ導くことは不可能であると見なした預言者ムハンマドは、６２２年にマッカからマディーナへヒジュラを行なったのです。このヒジュラ（聖遷）は決して逃亡ではなく、また単なる移住でもありませんでした。

親愛なるムスリムの皆様。ヒジュラは、イスラームの布教が目的へと到達するための変換点でした。ヒジュラは、イスラーム社会が秩序を持ち、一つの勢力となり、周囲にその存在を認めさせるようになるための最初の一歩となりました。ヒジュラはあらゆる要因を通し、統一、一体化、相互援助を訴えるイスラームが息づくための道を開いた重要な出来事です。ヒジュラは、信仰が物質的力に対し手にした勝利の象徴です。ヒジュラは、アッラーのご満悦のため、両親や親友、祖国、富、さらには財産や子供を断念することの、警告と苦しみに満ちた物語です。

ヒジュラは、全てをアッラーのために何のためらいもなく放棄したマッカの移住者たち、そして彼らを受け入れ、自分たちも困難な状態にあるのに彼らを優先させたマディーナのムスリム、アンサールたちの叙事詩です。この叙事詩では、献身、友情、約束への忠実さ、一体化、統一、分かち合い、自由への愛、公正、敬意、そして寛容が基本的なテーマとなっています。預言者ムハンマドのマディーナへのヒジュラは、こういった尊いものを人類に再び獲得させるための道でなされた努力のうち最も重要な段階です。ヒジュラのこの価値についてアッラーは次のように仰せられています。

「信仰する者、移住した者、またアッラーの道のために財産と生命を捧げて奮闘努力した者は、アッラーの御許においては最高の位階にあり、至上の幸福を成就する。」（悔悟章第２０節）

親愛なる兄弟姉妹の皆様。ヒジュラを飾る光景には、現代の人々のための警告、教訓となりえるものがあります。人類の救いは、ヒジュラによって始まった兄弟愛の模範が実現することによって可能となるのです。罪や反逆からしもべとなること、服従すること、そして崇拝行為へと転換することも、真のヒジュラであることを忘れずにいましょう。